



想い | つくる | 伝える



[F u u d]
2013
春号
—季刊—

大祖先の伝言

がんばろう ● ニッポン!

約5,000年前、信濃川中流域の河岸段丘で暮らしていた縄文人がつくった火焰型土器
世界でも類例がない造形(火炎型土器A式2号 長岡市馬高遺跡出土土器 馬高縄文館)

Take Free

ご自由にお持ちください

巨大な時代現場

[新潟市・聖籠町] 文 / 榎本国男

文化の来た道 vol.05



すべての港は国境である。いつの時代も、新しい文化と人を温かく受容するとともに、国際情勢の波をとともに浴びる。

幕末の1858(安政5)年、徳川幕府はアメリカ・オランダ・イギリス・ロシア・フランスの五ヶ国と修好通商条約を結び、新潟・横浜・函館・長崎・神戸を開港五港とした。新潟港は日本海側最大の港町であり幕府領だったことなどで開港地に選定されたが、各國の承認をえるまで時間がかかり、横浜開港から10年後の1869(明治2)年1月に開港した。日米修好通商条約に「もし難あらば、その代わりとして他の一港を別に選ぶべきこと」の条件が付いていた。新潟港の「難」とは、川が運んでくる土砂で水深が浅くなり、大船の入港が困難になること。とくに風波の強いときは座礁の危険性がともなった。幕府は、佐渡の夷(えびす)を停泊港にする打開案をだし、ようやく条約が締結された。いよいよ開港という直前、北越戊辰戦争がおこり、新潟も戦場になった。結局、条約に定められた開港日には間に合わず、少し遅れての開港だった。開港当時の輸入品はおもに化粧石けん・ろうそく・氷砂糖・ジン・ビール・黒糸(くろし)・フランネル・懐中時計など。輸出品は蚕卵紙(さんらんし)・清酒・玩具など。とくに蚕卵紙は外貨獲得のための有力な農産品だった。

以後144年、新潟港は今日では從来の西港と新たに建設された東港と、ふたつのエリアをもつ国際的な重要港湾に発展している。西港は新潟市中央区と東区に位置し、信濃川の河口両岸にまたがる港で、国内では珍しい町のなかにある港である。近年の港湾整備により両岸に遊歩道ができ、伸び伸びとした港風景のなかで散歩やランニングを楽しむ市民で賑わう。東港は新潟市北区と隣接する聖籠町までの広大なエリアで、韓国・中国・香港・台湾・シンガポールなどの東アジア～東南ア

ジア地域を結ぶ外貿定期コンテナ航路の基地であり、とくに日韓航路は週8便体制で運行している。また港内には石油、LNGの備蓄基地が敷設され、海外から輸入したエネルギーを各地に供給する中継地にもなっている。

東西とも港の埠頭へは容易にたどりつけない。車で回ってみると大型トレーラーが道路いっぱいでよく走れないうえ、周辺には大型倉庫が群れをなし、港らしい風景がある。また構内は、アメリカ同時多発テロで強化されたSOLAS条約に準拠する乗り入れ禁止がほとんどのうえ、埠頭への進路も概ね進入禁止だ。外部者を入れない特別警戒の様子がある。埠頭に立ち大きな外国船を見ようと、新潟と北海道を結ぶ新日本海フェリーのターミナルでもある山ノ下埠頭に立ち寄ってみた。駐車場の全部が乗船を待つコンテナで満杯である。古くは北前船で行き来していた荷物は、今やフェリーが引き受けているのだろう。

構内にある新潟港湾合同庁舎で、通関業務と監視業務について聞いてみた。海外旅行から持ち帰ってきた酒・タバコ・香水や、企業が輸出入する貨物の関税業務のほか、感染症の病原体や害虫の侵入をふせぐ検疫、大麻・アヘン・鉄砲・爆発物など輸入禁止物の検査・取締、密輸を阻止するための海上パトロールなど、水際で日夜にわたるさまざまな監視態勢が敷かれていた。やはり、ここは国境だ。

7年前、北朝鮮がミサイルを発射した日、万景峰号と日本が厳しく対峙する光景を目の当たりにした。港口に通じる航路を、大きな巡視船が斜め45度で泊まり、行く手を塞ぎ、埠頭にくぎづけにされたその船のまわりを、小さな艇が一定の距離を保ち、くるくる廻り示威行動を続けていた。上空で旋回するヘリコプターの轟音が、緊迫感をさらに煽っていた。

ふうど 2013春号 vol.20

企画編集 ふうど編集室

発行人 高橋春義

取材編集 渋川綾子

写 真 大矢佳織

東浦一夫

渡部佳則

斎藤道司

デザイン 小林翠

編集後記

昨年末、偶然立ち寄った書店で、一冊の本が目に飛び込んできた。表紙には優しい目をした土偶がいた。素人目でも神秘的で力強い造形。それが小説でも紹介した「ミス馬高」。地元ファンを魅了する土偶が、美術家の「発見」で新たな価値を放ちはじめたのである。一万余続いた縄文文化、その長い期間、より安定と便利をめざす様々な技術革新があったことを、全国各地の遺跡調査が裏付ける。日本人の生活技術と精神性の基層が、この時代にあったと言っても過言ではない。なかでも信濃川流域に恐ろしく創造性に富み、前向きな精神をもつ人たちがいた。そして先の読めない人生を、自然神をよりどころに生きた人たちがいた。その姿は大きな痛みが癒えない現代日本に、無言の励ましとして聴こえてくる。

なお、「ふうど」は今春で創刊6年目を迎えた。この間、ご協力いただいた取材先の皆さんと、ご声援いただいた読者の皆さんに御礼申し上げます。(渋川)

発行所

ふうど編集室

まごろ印刷
株式会社タカヨシ

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830
■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社4丁目33 ランドマーク一社501号 TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】NPO法人 Made in 越後(中央区)、上古町商店街(中央区)、砂丘館(中央区)、佐渡汽船ターミナル(中央区)、朱鷺メッセ(中央区)、新潟NPO協会(中央区)、新潟絵屋(中央区)、新潟県政記念館(中央区)、新潟県庁広報展示室(中央区)、新潟県立図書館(中央区)、新潟市市民活動支援センター(中央区)、新潟市生涯学習センター図書館(中央区)、新潟商工会議所(中央区)、新潟市中央公民館(中央区)、新潟県立自然科學館(中央区)、旧小澤家住宅(中央区)、新潟市食育・花育センター(中央区)、新潟大学図書館(中央区)、NSG学びステーション(中央区)、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館(中央区)
【新潟市】新發田市立図書館、新發田市民文化会館、新發田市生涯学習センター【長岡市】長岡市立中央公民館【出雲崎町】越後出雲崎天領の里
【東京都】表参道・新潟館 ネスバス(渋谷区)、プリンスにいがた(中央区)

エコプレス
バイインダー

RICE INK
この印刷物は環境にやさしい
米ぬか油を使用したライスインクで
印刷しています。

新潟 いちばん物語



卷之三

イタンス施設 馬高繩文館を訪ねる
信濃川左岸の河岸段丘に立つ館は、黒々とした西山丘陵を背負い、あたりの起伏する台地は深い森に覆われ、確かに繩文人が暮らした気配がする。繩文館がある関原地区は、江戸時代から葉タバコの特産地。昭和十年、その畑から「火焰土器」を含む膨大な繩文遺物が発見された。地元では明治のころから石器が採集される場所として知られ、遺跡一帯の大地主であ

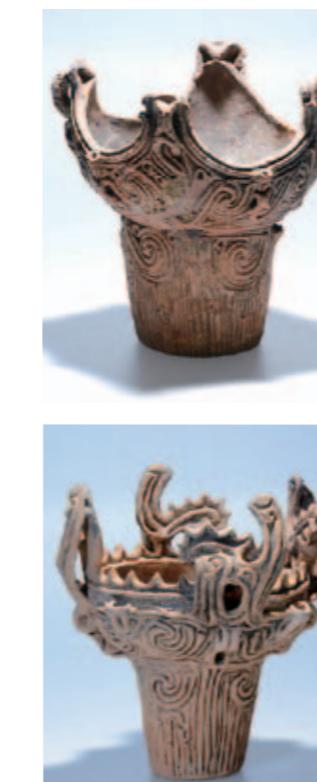
特の流儀が加わり発展し、エネルギーで個性的な造形に到達しました。それを火焰型土器と呼び、四つの鶏のとさか状の突起と、鋸歯状のフリルがついています。同型のものは糸魚川以南、千曲川以南、山形以北では見られませんが、類似したものは県外にもあります」。これだけ複雑な造形をつくることができた背景を「食糧が豊かで、生活にゆとりがあったから。新潟県は全国的にも、中期の縄文遺跡の

に、どうして広く伝播し
さんは個人的な見解です
し「土器はおもに女性に
れました。ひとりのある
地域の村に嫁ぐことで、女
れ、それが「かつっこい」も
その土地で流行しますわ
へ、婚姻によって文化が混
のに、五百年という期間は
時間だったかもしれない。

ぶりで装飾性に富んだ「^{火縄}型土器」の出土品が多い。昭和三十九年に開催された新潟国体の聖火台のモチーフは、長岡市の馬高遺跡の「^{火縄}土器」であり、縄文遺物として日本初の国宝になった火縄型土器は、十日町市 笹山遺跡から出土した。いずれも信濃川流域である。

エジプトとメソポタミアで、文明が発祥した時期と重なる。

The image displays two ancient pottery vessels from the British Museum collection. The upper vessel, labeled as a 'Kongru' (King's crown) vessel, features a wide, flared rim with a decorative band of swirling patterns. The lower vessel, labeled as a 'Hibachi' (fireplace) vessel, has a narrower neck and a more complex, flame-like pattern at its top. Both vessels are made of a reddish-brown clay and show signs of age and wear.



大英博物館に3ヶ月間ほど展示され
王冠型土器(上)と火焔型土器(下)
(長岡市教育委員会提供)



土器で始まる縄文文化

土器で始まる縄文文化

日本の先史文化のなかで、縄文土器の強烈な造形は、時間の壁を突き破り、圧倒的なパワーで迫ってくる。なかでも代表的な火炎土器。^{※1}新潟県は、芸術的にも学術的にも評価の高い縄文土器が多い。それは海外にも知られる。

いまから約一万二千年前、氷河期が終わる頃、日本列島で暮らす先史人たちは粘土で容器の形をつくり野焼きする土器を発明した。この画期的な食品容器の出現で、食糧の加工・保

本格的な稻作が始まる弥生時代まで、約二万年にわたり縄文時代が続いていく。考古学では縄文土器の様式の変遷に沿い、一千年を大きく六期に区分する。縄文文化がもつとも爛熟する中期に、ダイナミックな火炎土器が新潟県域を中心につくられた。約五千年前から四千五百年前の、約五百年の間である。県内で火炎土器が出土した遺跡は約百五十カ所あり、信濃川中流域から上流の長岡市、十日町市、津南地

足元の大地には、夥しい時間が堆積している。
遠い昔の暮らしの跡を温存している地点もある。
幸運に、それらが長い眠りから醒めた瞬間、
平凡に生きた先人の暮らしぶりが、
その地域の歴史や文化の成りたちを雄弁に語りだす。

文化大使として大英博物館へ

長岡市の岩野原遺跡から出土した
火焔型土器と王冠型土器が、昨年の
十月から今年の一月まで、イギリスの
大英博物館に貸し出され、特別展示

時間だったかもしだれない。

道具という考え方もありますが、信濃
川を中心に行きな文化圏があり、その
エリアを示す共通的なシンボルだった
という見方もできます。いずれにして
も精神性と関係あるように思いま
す」。さらに筆記用具や写真など記録
媒体がない時代で、交通機関もないの
に、どうして広く伝播したのか。小熊
さんは個人的な見解ですが、と前置き
し「土器はおもに女性によってつくら
れました。ひとりのある女性が、別の
地域の村に嫁ぐことで、文化が伝えら
れ、それが「かつこい」ものであれば、
その土地で流行しますね」。村から村
へ、婚姻によって文化が県域を越える
のに、五百年という期間は十分すぎる
時間だったかもしだれない。

外の人たちが、日本の先史文化に目を
見張った。この数は、期間中の博物館
の入館者数の一割弱にあたり、過去十
年で開催された「浮世絵など日本を
テーマにした企画のなかでトップを誇
る快挙だった。

鑑賞者から造形物としての素晴ら
しさが讃えられ、新潟の縄文土器の美
が世界に通用することを証明した。約
五千年の間、地中に埋もれた二つの土
器が、日本の文化を伝える海外大使に
なったのである。また帰国後にアオーレ
長岡で開催された「帰国展」では三日
間で二千七百人の人が詰めかけた。
この思いがけない反響に「長岡に凄い宝
物があることを地元の人たちに知つて
もらう、いい機会になりました」と、日
頃から身近にある縄文文化を伝える
ことに腐心する小熊さんだけに、喜び
はひとしおだろう。

文化大使として大英博物館へ
長岡市の岩野原遺跡から出土した
火焰型土器と王冠型土器が、昨年の
十月から今年の一月まで、イギリスの
大英博物館に貸し出され、特別展示

文化大使として大英博物館へ



世界中から年間600万人の入館者があるという大英博物館
(長岡市教育委員会提供)

※1火炎土器／土器の口縁部に炎のような様式をもつ縄文土器の総称
※2火焔型土器／火炎土器のなかで、とくに土器の口縁部に鶏のとさか状の突起と鋸歯状のフリルがついた土器 新潟県特有のデザイン流儀
※3火焔十器／長岡市馬高遺跡で昭和11年に発見された1個の十器につけられた名称

今と 変わらぬ 日々の基本

つくる 縄文の知恵

馬高ムラのワンシーン

馬高遺跡の発掘調査を参考に、縄文人のある一日を再現してみた。雪がすっかり融け、五月のよく晴れた空の下、ムラの中央広場を囲むように十棟の堅穴住居が明るい陽射しを受け、半円状に立っている。広場のほと中に先祖の墓地があり、各家の入口はすべて、そこに向いている。家は、近くの雑木林から伐り出してきた太い木で柱を組み、屋根と壁を茅で覆っている。家の近くに穴があり、秋に採

集したドングリやトチなど木の実がたっぷり貯蔵されている。水にさらしがれ汁抜きをしてから、石皿と石製の擂り粉木で粉状にして、食べる。広場の端に共同のゴミ捨て場があり、そのままに外側に鹿などの動物を追い込む落とし穴が掘られている。春の暖かい陽気に誘われ、馬高ムラの女性たちは、家の前に植物の繊維で編んだ敷物を広げ、その上に座り、おしゃべりをしながら手をせつせと動かしている。ある家では、家族総出で朝採ってきたばかりの山菜を始末している。煮炊きは家中で。ムラの南端の家では、おばあさんが土器づくりに余念がない。手先が器用で、植物の繊維

維で編む衣服も、誰よりも早く仕上げる。沢の方から、土器を頭に載せた女性が森を抜けて、こちらにやってくる。気の早い人が、食事の準備のために下の沢から水を汲んできた。もう少しで陽が傾き始める。そろそろ食事の支度をする時間が近づいてきた。本質的に現代とまるで変わらない、馬高の春の一日である。

縄文の交易

馬高遺跡に限らず、県内の縄文遺跡からは当時の広範囲にわたる交易エリアを知る手がかりとなる遺物が多い。馬高遺跡では、国内で糸魚川市でしか産出されないヒスイの大珠、ヤジリに使用した伊豆の神津島でとれた黒曜石、銚子産の瑪瑙の玉などの他、周辺の遺跡と比較して珍しい遺物の種類が多いそうだ。小熊さんは「ここは一年間の発掘調査をしただけでも、土器の破片や石器など十万点もの遺物が出土します。火焔土器」を発見した近藤家の収集資料や、今まで発掘調査してきた遺物の点数をあわせると膨大な数になります。それも遺跡全体の一部で、まだ調査していない区画がたくさん残されています。その集落址の規模と遺物の

すべての土器の破片の裏には出土状況を伝えるデータが記されている



すべての土器の破片の裏には出土状況を伝えるデータが記されている



1万年の間に変遷していく縄文土器の紹介コーナー



遙か遠い縄文の世界をナビゲートしてくれた小熊博史さん



大胆で迷いのない文様造形に、当時の手慣れた作業風景が透けて見える

馬高遺跡から「火焔土器」とともに発見された土偶「ミス馬高」、日本の土偶を代表する優品
豊穣や多産、安産の願いを託し自然神に捧げたとされる
(長岡市馬高遺跡出土 縄文中期 馬高縄文館)

時代の証言者たち

伝える 知の継承

さすが馬高だ！

遠い過去と迫りくる近未来にはさまれて、仕事をする人たちがいる。遺跡の発掘調査をする専門家たちである。

発掘には学術的な調査と、開発事

業前の調査がある。馬高縄文館の小熊さんは、長岡市立科学博物館の考古部門担当の学芸員でもあり、今まで二万年前の旧石器時代から江戸時代まで、数多くの発掘調査の現場を経験してきた。「工事現場の監督みたいなものですよ」笑いながら、その魅力を「予想していなかった遺構や遺物が

でてきた時の感動と、謎を解明する楽しさでしょう。馬高遺跡で住居の柱の近くに逆さまに埋められた火炎型土器を発見した時は、興奮しました。それも完全な形でしたから、祭祀に関係したものだったのでしょうか。縄文人から難題を突きつけられたようでした。

墓を掘り当てた時も感無量でした。ムラの全体形が確定していない時期で、たまたま表土を取り除いたままにしていた所に、橢円状の淡い沁みがでていました。その部分を注意して

農業大国・新潟の原風景

おなじく長岡市立科学博物館の学芸員、加藤由美子さんは、大河津分水路可動堰改築事業にともなう五千石遺跡発掘調査の現場を監督し、古墳時代に営まれていた人びとの生活を生々しい状態で目撃しました。約千五百年から千七百年前にあつた事実である。人の生活を裏づける状況証拠がたくさんあったなかで、集落の脇に人工の水路跡を発見した時、農業大国・新潟の原風景を見たような気がしたという。

この遺跡調査は分水の河道の付け替え工事の最中に奇跡的に発見された土器が発端になり、現場の発掘作業だけでも三年を費やす大規模な調査だった。加藤さんは「発掘調査は、大河津分水路の歴史にひとつのかたわら続

きて、墓であったことが判明しました。その副葬品を見た瞬間、さすが馬高！だと思いました」。遺跡発掘の秘訣は「とにかく徹底的に観察する。地中の痕跡が地表にでているケースがよくあるので、土の表面の様子を目を凝らして見れば、推測できます」。



セロから縄文土器を創作し改めて縄文人の造形力に感心する高橋久美子さん



金八遺跡(長岡市)で調査する加藤さん



かつて発掘調査した大河津分水路を見下ろす加藤由美子さん



新たに付け足した石ごう部分を絵具で彩色する



馬高遺跡の堅穴住居の柱の跡 火焰型土器がつくられた時期のもの

長い歴史があったことが調査で証明され、分水が流れる風景に時の厚みが加わったと思います」そして当時をふりかえり「堤防の上から発掘現場で百人近くの作業員さんが働く様子を眺めた時、古墳時代の村の光景と重なったように感じた瞬間があつたんです。その時、とても腑に落ちました。昔の人も、いまと同じように生きてい

た」とも。

発掘現場について「現場は体力が勝負。自分のモチベーションをあげ、チームを引っぱるのが、発掘調査員の大きな仕事。大勢の人を率いるので、途中で倒れる訳にいませんから」。そして、

インフォメーション

馬高縄文館ー火炎土器ミュージアム

長岡市柳原町1-3060-1
TEL 0258-46-0601

長岡市教育委員会・長岡市立科学博物館

長岡市柳原町2-1
TEL 0258-32-0546

読者の声 ~前号を読んで~

昭和30年代の東京下町の餅搗き

ふうど2013冬号の表紙の「お餅」の写真を見て、子供の頃の歳末の記憶がよみがえってきました。昭和30年代、東京の下町では、どの家も自家で餅を搗いたものです。臼は持ち回り、隣から隣へ。玄関の土間に餅を搗く大人たちが頬もしく見え、自分も“いつかは”と思ったものです。餅を搗くことが大人の証しになると信じていたのですね。

(千葉県佐倉市 70代男性)

日本の食を大事にしたい

餅は信仰と深い関係があるんでしょうね。正月のお飾りに、お祭り、家を建てる時なども、お餅をお供えして、そのお下がりを皆で食べ祝う! 私達の町づくり行事にも餅搗きを催し、お年寄りから子供まで一緒に盛り上がりります。大鍋でつくる雑煮は格別に美味しいです。餅は食べてすぐにエネルギーになるスグレ物です。これからも日本の食を大事にしたいと思いました。

(燕市 50代女性)

土器が復元されていく様子、破片がない部分を石膏で造型する

きれいにしてあげたい!

現場では状況証拠の正確な把握と現場検証ができる洞察力が大切と、明快に答えてくれた。

発掘調査は、現場の発掘作業に統いて遺物を記録し復元する大切な作業がある。

高橋久美子さんは、好奇心から遺跡の発掘作業に参加して以来、すっかり現場の虜になつた一人である。天候の影響を受ける過酷な状況で、世代を越えて勞りあう人間らしい現場の雰囲気が楽しくて、二十年近く発掘調査の作業員として働いている。土器の復元もするベテランである。その方法は「土器が発見された時の現状のまま、コンテナに入れて持ち帰り、一片の破片をきれいに洗い、乾かしてから復元します。でも土器は壊れて捨てられたものですから、一ヵ所に二つの土器の破片が集まっている訳ではありません。コンテナに入れて持ち帰り、一片

をキレイに洗い、乾かしてから着剤で接合します。破片が見つかなら、同じ文様を探します。たくさんある破片をあちこち探し回つて見つけた時は、「ああ、あの子がいた」という感じで嬉しくなります。同じ仲間の破片を集め、断面の摩耗具合に添つて接着剤で接合します。破片が見つからない時は、空いている部分を石膏で埋め形をつくりあげていきます。全体の形ができたら、彩色して完成です。初めの頃は、接合した土器がバラバラになつた夢を見たこともありました。いまは楽しくて楽しくて。大勢の作業員さんたちが、暑さ寒さのなかで一生懸命に掘りあげた汗の結晶ですから、せいいっぽいきれいにしてあげたい」という気持ちでやっています。

こうして先人たちの伝言が、未来に伝わっていく。

